

山手まちづくりニュース . 1995.09.09 発行.

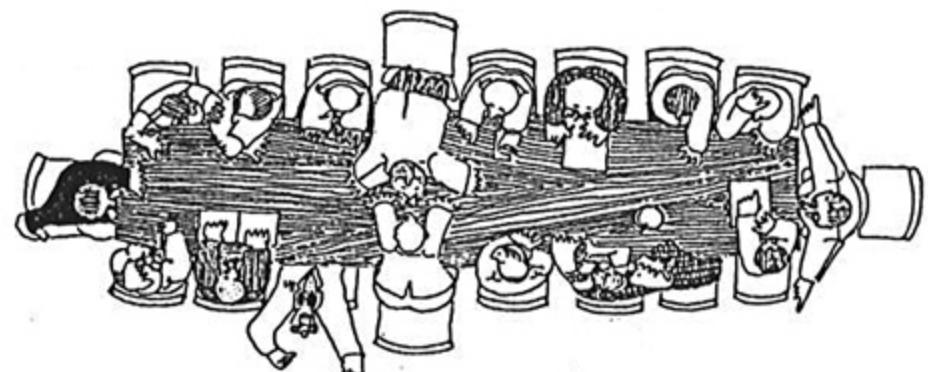
—陣屋坂整備の第一回プロジェクトが開かれます。—

(第1回) 9月9日 AM. 於) エリスマン邸ホール

- あいさつ: 鈴木まちづくり協議会代表/北沢横浜市都市デザイン室室長
- 自己紹介: 酒井都市デザイン室係長の司会で、プロジェクトの主旨説明と出席者自己紹介。
 - 陣屋坂沿道住民4名+インターナショナルスクール代表/山手住民(まち協を含む)9名+雙葉学園・フェリス女学院代表/横浜市都市デザイン室3名/中土木事務所2名/中区役所1名/コンサルタント1名 合計23名
- 資料説明
 - ・過去3年間の山手まちづくり(市民と行政の協働)の経緯と成果
 - ・山手まちづくり研究会で整理された陣屋坂の課題
 - ①居住環境重視地区の道路環境モデル
 - ②公共空間での山手らしい緑量拡大
 - ③道路システム明確化と来街路上駐車対策
- 討議の概要
 - ・今会議の性格はどういうものなのか?
 - ・道路整備の時期にあわせて、今までの成果を取り入れ、生活に密着した脇道整備のモデルプランづくりをしようということ。
 - ・もっと本質的な課題は先にやらないのか?
 - ・山手全体の交通・道路システム・バスの課題(研究会で整理された)は今後並行して取り組むことになる。
 - ・ワシン坂方面本通りの歩道問題等についても、別途進めて行かなければならない。
 - ・陣屋坂の現在の使われ方はどうなっているのか?
 - ・途中まで対面交通、諫訪町区域が一方通行。この使い方を守ってゆくことになる。
 - ・外の人や車は入ってこない。道が広いので通り抜けられると思って入ってくる車はある。(地先道路の性格)宅配トラックが出入りしている。
 - ・朝、夕、昼にインターナショナルスクールの送迎車が多い。学校は父兄に厳しく指導しているが守られないで申し訳ないというお話。子供達が体育館へ道を渡って利用している。(交通安全は課題)
 - ・どういうことに配慮して計画してゆけばよいのか。
 - ・交差点入口の広くて入りやすい雰囲気を変えるとか、サインを出すとかしたら、無用の車が入って来なくなるだろう。
 - ・消防の手前くらいで道を狭くして、通り抜け禁止のサインを出してはどうか。
 - ・側溝はL、U、皿型の3タイプがあるが、Uは車が脱輪している。安全にしたい。
 - ・入って来た車がUターンできるとよい。
 - ・9mの幅は解放感があり右側駐車もしている。歩道や並木等狭く見せるのは賛成。
 - ・解放的な空間自体は守るべき魅力かどうか、いろいろ意見。
 - ・魅力よりも用のない車が入って来てしまう事のほうが問題だろう。
 - ・どんどんきれいに整備して、用のない車を誘引しないようにも考えたい。
 - ・見尻坂と連続している歩行者優先のルートとして考えるべきだ。
 - ・子供達が通るところに歩道や安全施設ができるることはありがたい。

・今後の進め方

- ・次回は今日の話をもとに、いくつか案をつくってみる。
- ・絵があって、いきなり説明と合意を求められるやり方でない、この度のやり方は評価したい。
- ・陣屋坂は、山手のまち全体と同じで、沿道の人達・山手に住む人達・山手に来る人達皆の財産だということを大切にしたい。
- ・こういう議論のひとつひとつの積み重ねをたいせつにしたまちづくりを今後もやってもらいたい。



次回は9月30日(土)PM1:30から、エリスマン邸不ールです。PO